

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

機関番号：34314

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22830114

研究課題名（和文） 保育者・子ども・保護者の関係性に見る保育実践の質—保育記録と保護者の語りから

研究課題名（英文） Quality of Early Childhood Education and Care from the perspective of a Teacher, Children, and Parents - an Qualitative Analysis of Preschool Records and Narratives of Parents -

研究代表者

林 悠子 (HAYASHI YUKO)

佛教大学・社会福祉学部・講師

研究者番号：90584483

研究成果の概要（和文）：

本研究の成果として、以下の2点があげられる。①保育記録分析により、保育者の捉える保育の質とは、保育者と子どもの関係性を中心とした日々の実践のプロセスそのものであることが明らかにされた。また、保育者と子どもの関係性においては、子ども一人一人とクラス集団（個と集団）との同時並行的な関係性のバランスの維持によって、子ども・保育者の関係性が発展していることも見いだされた。②保護者の語りから、保護者にとっての保育の質とは、単に安全に子どもを預かるというレベルにとどまるものではないことが明らかになった。すなわち、安全を基盤とし、保育者との関係性の深まりの中で、子どもの育ちを支えるという同じ方向を向きながら、保護者自身のさまざまな思いも共有できるような保育者との関係性にまで質の意味を見出していることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

The first finding of this research is that the quality of early childhood care and education from the preschool teacher's perspective is the process of relationship between the teacher and children. The second finding is that the quality of early childhood care and education from the parents is beyond the safe care. Parents find the meaning of the quality in the relationship between the preschool teacher. Both parents and the teacher support the child's development and share the various feelings of parents.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	670,000	201,000	871,000
2011年度	690,000	207,000	897,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,360,000	408,000	1,768,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：保育の質・関係性・保育記録

1. 研究開始当初の背景

国際的に注目されており、日本でも関心が高まっている保育の質の問題は、どのように質を高めるのかという観点からの研究が多くなされており、保育の質とは何かという定義については、相対的なものであるという共通の認識はあるものの、政策レベルでの議論が中心であり、実践に関わる人々の視点を反映した議論が十分なされているとは言い難い状況であった。そこで、保育の質を実践に即して明らかにするボトムアップの研究が必要であると考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近年日本においても議論がなされ始めた保育の質の問題について、保育に直接関係する人々（保育者・子ども・保護者）が保育の質をどのようなこととして捉え・経験しているのかを、その関係性に着目することにより明らかにすることである。

先行研究において、保育の質を構成する要素として、構造の質・プロセスの質・結果の質があるとされているが、本研究では、そのプロセスの質に焦点を当て、日々営まれる保育実践の過程の質を、実践に即して明らかにするものである。具体的には以下の2つの研究を進めた。

(1)平成22年度は、保育者と子どもの関係性において、プロセス（過程）の質とはどのようなことなのかを保育記録分析より明らかにし、

(2)平成23年度は、保護者にとって保育の質とはどのようなことと捉えられているのかを、保護者の語りの質的分析によって明らかにすることが目的である。

3. 研究の方法

(1)平成22年度は、保育実践における保育者と子ども関係において、プロセス（過程）の質とはどのように捉えられ経験されているのかを明らかにするため、保育記録の質的分析を行なった。具体的には、実践の当事者が研究を行なうという立場から、筆者が保育者として実践した当時の保育記録をKJ法を用いて分析した。

(2)平成23年度は、保護者にとって保育の質とはどのようなことと捉えられているかを明らかにするため、現在保育所を利用している保護者への半構造化インタビューを実施し、語りのデータをKJ法によって質的に分析した。

4. 研究成果

(1)平成 22 年度の研究では、保育記録の内容は以下の 8 つのグループに分類できた。

- ①子どもの育ちにおいて保育者が大切だと思っていること
- ②子どもと過ごす中で保育者の心が動かされた
- ③実践した活動について振り返る
- ④子どもの姿から行為の意味を考え、育ちの可能性への期待と課題を考える
- ⑤子どもたちの関係性を捉える
- ⑥もっとよい実践をしたいと思い、そのためにどうすればよいかを考える
- ⑦子どもと過ごす中で保育者の子どもへの関わり方について考える
- ⑧職員との協力が大切だ

グループの内容の特徴から、保育者は子ども・保育者・職員・保護者との関係性を重視していることが確認できた。

また記録内容の意味連関の考察から、保育者は、子どもの育ちへの願いを持ち、子どもと出会い、子どもの行為の意味を考え、新たな関わりを展開させており、この積み重ねの中にプロセス（過程）の質が見いだせることが明らかになった。また、もともと品質管理システムとして発展したPDCAサイクルが教育・福祉の分野にも導入されつつあるが、本研究の結果からは、保育実践のプロセスは、保育者の保育観・育ちへの願いとの往還を絶えず繰り返しながら継続しているという点で、PDCAサイクルでは捉えきれない部分があることが考察された。

(2)平成 23 年度の研究では、インタビューデータの内容をKJ法によって分類した結果、以下の 7 つのグループに分類できた。

- ①愛しいわが子の安全と健康を願う
- ②子どもの育ちについて、不安もありながらも喜びを感じる
- ③保育所での子どもの人間関係への心配と喜び
- ④保育者に対するさまざまな思い
- ⑤仕事と子育てのバランスをとる難しさを感じながら働く
- ⑥保護者どうしの関係に気遣うこともあれば心強いこともある
- ⑦保育所に対する感謝や期待、要望

保護者は、悩みや揺らぎや喜びが常に混在しながら、子どもの育ちを拠り所として、毎日を積み重ねている。保護者にとっての保育の質とは、仕事で単に子どもを安全に預かってくれればよい、というレベルを超えたものであるだろう。担任保育者を中心に、保護者としての様々な思いを受け止め支える、わが子の育ちの可能性を広げる経験を保障し、育ちを喜び合う、といった、日々の保育者との関係性の積み重ねの中に、質を見出していると言える。

本研究で行なったように、保育に直接関係する保育者・子ども・保護者等の日々の経験を反映した、目に見えにくい実践の積み重ねを言語化することは、単なるサービス内容としての保育の質議論ではなく、実践に即した保育の質議論を進めるために意義があると言える。今後は、一事例にとどまらずさらなる事例の検討を蓄積してゆくことが課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

(1)林悠子(2012)「保育記録に見る保育者と子どもの関係性—子ども1人1人とクラス全体に注目して—」『社会福祉学部論集』第8号, 佛敎大学,p17-38 (査読なし)

(2)林悠子 (2011)「保育実践における『過程の質』—保育記録の分析から—」『社会福祉学部論集』第7号,佛敎大学,p77-94 (査読なし)

[学会発表] (計2件)

(1)林悠子「保護者の語りに見る保育の質—保護者へのインタビュー調査から①—」日本保育学会第64回大会 2012年5月4日 東京家政大学

(2)林悠子「保育記録分析に見る保育者と子どもの関係性—個と集団に注目して—」日本保育学会第65回大会 2011年5月22日 玉川大学

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 悠子 (HAYASHI YUKO)
佛敎大学・社会福祉学部・講師
研究者番号: 90584483

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: